

2023年度  
NO.13  
2月号



# 小学部だより 作新学院小学部

2024年 1月 30日

<https://www.sakushin.ac.jp/elementaryschool/>

先日、宇都宮で梅の開花が発表されました。「梅」にまつわる諺や言い伝えはたくさんありますが、真っ先に思い浮かぶのが「塩梅」です。酸味と塩味で料理の味を引き立てる調味料のことですが、これがいつしか日常生活にも使われだし「いい塩梅」は「とても具合のいいこと」を意味します。つられて思い出すのが「さじ加減」です。「さじ」とは、現代ではあまり日常的には使われなくなっているかもしれませんが。スプーンといえば想像がつくかと思えます。一服どころか何mg、もしかしたらmgの下の位の単位を「さじ加減」と言い表しているのかもしれませんが。物事の状況に応じた扱い方は難しいものです。

しかし、「塩梅」にしろ「さじ加減」にしろ、微妙な調整が人間関係には求められると思います。心のひだに触れることを「琴線に触れる」と表現するように、「白か黒か」のような二者択一だけでは納得も安心感も得られない時があると思います。もしかしたら、私たち現代人に求められているのは、この「塩梅」や「さじ加減」なのかもしれません。

俗に、一月は「行く」。二月は「逃げる」。三月は「去る」などと表現されます。正月を迎えたと思ったらあっという間に…。年度末まで二か月です。学業のまとめと進級・進学に向けて総まとめの時期です。その忙しさの中に、塩梅やさじ加減を忘れてはいけないと言いかせたいものです。

## 2月の行事予定

1	木	個人面談⇒2/3(土)まで	14	水	B日課
5	月	租税教室・財務教育(6年)	15	木	役員会
6	火	クラブ	20	火	スキー教室(5・6年)⇒2/22(木)まで
8	木	個人写真(1～5年)	27	火	必修クラブ(6年茶道招待)
9	金	スケート教室(3・4年)	28	水	学力テスト⇒3/1(金)まで
13	火	学級懇談会(6年) 必修クラブ見学(6年保護者)	3/4	月	新入生購入用品引き渡し

## 連絡事項

- 1/31(水)から個人面談が始まります。すでに各クラスより詳細を記載したプリントが配布されています。よろしくお願いいたします。

- 2/5(月)に租税教室・財務教育(6年)があります。専門家担当者が来校され、将来に活かせる知識が習得できる機会です。アカデミア・ラボのクエストルームで開催します。
- 2/8(木)に、新学年に向けての個人写真撮影(1年生～5年生)があります。特に撮影日には服装・頭髪を整えて登校させてください。
- 2/9(金)に、スケート教室(3・4年生)があります。詳細は1/11(木)配布の記載通りです。昨年同様専門のインストラクターが各グループで指導してまいります。
- 2/14(水)はB日課です。下校時刻が変わります。ご注意ください。
- 2/20(火)から二泊三日の予定でスキー教室(5・6年)があります。1/11(木)と1/15(月)に配布したプリントをよくお読みになってください。日頃から健康には留意されているところですが、安心安全なスキー教室となりますよう、該当学年の子どもたちはもちろんのこと、保護者様におかれましてもお子様の体調管理をよろしくお願ひいたします。

## 個人面談・学級懇談会について

○1年生～5年生の個人面談について

日時 クラス配布の記載通り 各教室にて  
午前中授業・給食、該当学年の下校は1:30p.m.  
駐車場は、西駐車場です。

○6年生の学級懇談会について

日時 2/13(火)3:15p.m.～ 6年各教室にて  
6年生の下校は3:00p.m.  
駐車場は、西駐車場です。



## 卒業まで「6週間と半分」

先日の「一日入学」では6年生の女子に係りお手伝いをお願いしました。担当した6年生に聞いてみると「私も(当時の6年生の)お兄さんやお姉さんにお世話になった」という言葉が異口同音に返ってきました。思うに、小学部の伝統になっているのがこの「係りお手伝い」です。

小学生の発達段階を考えると、保護者(親)から愛情豊かに育てられ、その後少しずつ生活の場を外に向け始めます。公園デビューという言葉がありますが、まさに安心安全であった親御さんの視野から、外界へ歩みだす段階を表す言葉でしょう。幼稚園や保育園で集団生活を学び始めます。このとき人間関係は親からお友達へと広がっていきます。小学生になると、“クラスメート”を強く意識し始めます。そして…、学年の違う「お兄さん」や「お姉さん」という年上の“お友達”を人間関係の枠に入れ始めます。このとき、「お兄さん」や「お姉さん」と呼ばれる5・6年生はロールモデルとして学びの対象になります。「私もお世話になったあの時のように、下の学年の子をお世話したい」などと自覚し始めるのです。その先頭に立っている6年生は、卒業までの間、下級生にどんなお手本を示すのか、楽しみながら見守りたいと思います。